



自力と他力

永田円了

Beyond Your Mind

自力とは、自分の力で物事を前へ進めること。他力とは、人間の計らいを超えた力のこと。自力とは科学で証明できる世界のこと。他力とは人知では証明できない、見えない世界のことである。自力では、この人生を生きている、と言い、他力ではこの人生は、生かされていると言う。

他力：生かされていることの科学的事実

人は75兆個の細胞からできている。75兆という数値は、顕微鏡で1秒間に5個見る×100年×5000回という、途轍もない数なのである。また人の心臓は一日に10万回鼓動する。そして人が生きることに必要な、太陽、酸素、水など、実は何一つ人間が作ったものではないという事実。この単純な事実からも言えることは、生命というものは、<他力>生かされている、という土台の上で生きているということである。

科学（自力）の本質

科学は本質的に、答えられる問題を探しだして、それに答えるだけのもの。答えられない問題は、初めから切り捨ててしまう。切り捨てられたものは、忘れ去られ、解かれた部分だけが私たちの目の前にてでくるので、人間はいかにも何でもできる、何でも知っているかのように錯覚を起こす（生命科学者・柳沢桂子）

この生命世界の本当のおもしろさは、今すでに証明されている世界（5%）の中にはなく、むしろまだ証明されていない、未知の世界（95%）の中にあるのです（What the bleep do we know より）。



自他力のパワー

自他力とは、いまだ発揮されず自らの中で出番を待っている力。出番はいつも水面上の5%の力が仕切っているがために、ほとんど諦めて眠っている力のことである。もし、水面下のこの力に目覚め、5%の堅い枠を壊したなら、何が起こるだろうか。

「驚いても驚ききれない、飲んでも飲みきれない、そういう無限際のものに遊ばせてもらっている」「私は幸せ者です」。天才板画家・棟方志功は言った。棟方が素晴らしい数々の作品をつくり続けることができたのは、彼が天才であった、というより、人間が潜在的に持っている95%の力にアクセスできたからである。

自力と他力のコラボレーション

ええ、こんな事が自分にできた！ 思いもよらない良い仕事ができ、素晴らしい作品が完成した。こんな時、私たちは何か人知では計れない天からの力が働いたと気づく。それは天からというより、自らの奥深いところから、待ってたとばかりに飛び出てきたエネルギーが活動したからであろう。

自他力とは、いつも私たちの魂の成長を深く願っている自愛である。自他力とは、全ての出来事の背後にスタンドバイして出番をまっている存在である。この力を取り込むことができるかどうかは、自力のエネルギーがどれだけ良質なものであるかにかかると。

<事例 DVD>

「悲しい別れ」大島史子ちゃんの物語、平成1年 富山 KNB 放映
 サバン／メモリードローイング／ウィルシャーさん
 棟方志功の他力／驚いても驚き切れない 自他力の世界
 映画「コンタクト」／証明できる世界に執着したエリーの意識改革
 プラシーボ効果／意識が身体を変える
 歌・The Impossible Dream 見果てぬ夢、ブラザーズ・フォー

円了のホームページ： www.enryo.jp



板画家・棟方志功